

2020年度 自己評価結果報告書

—教職員編—

1 本園の教育目標

一 心豊かな思いやりのある子どもに

二 自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに

◎明るく潤いのある子ども ◎思いきり遊べる子ども ◎話をしっかり聴く子ども ◎調べたり、試したり、工夫する子ども

- 1 人との関わりを通して、基本的な生活習慣・態度及び健全な心身を育成することの必要性に気付き、自ら進んでその態度・意識を高めようとする意欲を育む。
- 2 自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う。活動と休息、開放感と緊張感、動と静などの調和を保った健康的な生活リズムを保障する。
- 3 自然と豊かに関わることを通して、その不思議さ等に気付いたり、科学的認識を高めたり、昆虫などの生命ある小さきものをいとおしむ態度を培う。
- 4 心の働きの表れである『ことば』を大切にし、喜んで話したり、聞いたりする態度を養う。
- 5 多様な感動体験を伴う生活を通して、より豊かな感性を培い、創造する力、想像する力を豊かに育む。

2 本年度の重点評価項目、評価結果、取組・達成状況

重点評価項目		評価結果	取組達成状況
分類	内容		
保育の 計画性	3歳4歳5歳の連続性を重視し、子どもの成長発達に役立たせるために、前年度の担任と話し合う機会をパターン化させる。	A	・前年度の担任から、伝達された成長の様子や課題などを参考にした点と、新たに見られた姿、著しく成長する姿に合わせた保育を計画してきた。年齢の連続性を重視し、子どもの変化に伴いその都度確認し合い、一人ひとりの姿に寄り添った保育が展開できた。今後も、一人ひとりの成長する姿に合わせた保育を進めていけるよう、積極的に話し合う機会を大切にしたい。
	人の話を聴くということの自立については、多少制約されつつも集団の中の一員としての自覚を持つよう導き、教師の指示ではなく、子ども自身の必要感に裏打ちされた自立的態度化を求めて日々子どもたちと接している。	A	・集団の中の一員として育つ部分が大きく、クラスの友達や他学年の姿をモデルとし、頑張る姿が見られた。教師が年齢や子どもの姿に合わせ、興味が持てるような環境を工夫することで、自分で行動する場面が増えた。年長児は、友達の関わりを深め、共に活動を創り上げる経験を通し、人の気持ちに思いを寄せ、自分達で考える力が育った。今後も、子ども達の主体性を重視し関わっていききたい。
	指導計画は、自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う保育を心掛け、幼児の生活が豊かになることを目標とし、幼児が主体的に関わり、安定して遊び込める環境を活動の展開に応じて再構成している。指導上配慮を必要とする園児に対しては、個別の指導計画を作成し、情報交換を密にして共通理解をもって対応する。行事は、幼児の実態に合わせて見通しを持って取り組んでいる。これからも、実際の子どもの姿を十分に見つめながら、互いに見通しを持った保育が展開出来るよう、共通理解を深めていきたい。	B	・感染予防対策を講じる中、今までの方法とは異なっても同様の経験が少しでも出来るように遊びや生活を工夫した。子ども達の意欲を持ち、興味・関心を高める保育内容を日々の遊びや活動に取り入れることで自信や喜びに繋がっていった。また、密接を避け、安心出来るような環境作りを考慮し、様々な面から援助していった。その中で自己発揮を保障し、更に自己抑制をする生活へ導くことが出来たと思う。 ・指導上配慮を必要とする園児に対して、個別の指導計画を作成し話し合うことで一人ひとりの成長や課題がより明確になり、園児理解を深める大切な場となった。今後も情報交換を密にし、共通理解しながら対応していきたい。次年度は内容を園内で公開し更に学びたい。 ・感染予防対策を講じての行事は、発想の転換を試み、結果今までにない体験が出来た。今後も子ども達の発達過程を重視し、教育活動を展開出来るように考えていきたい。また教師間において録画を通しての学び合い等方法を検討し、共通理解を深めていきたい。

<p>保育の在り 方 幼児への 対応</p>	<p>ひとりひとりのありのままの姿を受け入れ、幼児の気持ちに共感しながら“個と集団”の関係を常に考慮し、発達段階や個の特性に応じた、見通しのあるかかわりをしている。</p>	<p>A</p>	<p>・子どもひとりひとりの違いを受け止め、じっくり関わりを持ち援助してきた。特に指導上配慮を必要とする子どもの個別支援計画を作成し話し合いを深めた。このことでひとりひとりへの配慮や方法等の確認ができた。それぞれの発達段階や個の特性に応じた環境設定を意識する中で“個から集団へ”を考慮した様々な環境の必要性を改めて感じた。さらに教師間の中で共通理解を深め場面に応じた対応の仕方を実践していく。</p>
	<p>他のクラスや異年齢の幼児と関われるよう、様々な保育の形態を取り入れ、指導上配慮を必要とする園児については特に情報の交換を密接にし、共通理解をもって対応している。</p>	<p>B</p>	<p>・感染予防対策を踏まえた上で異年齢の関わりが持てるように工夫してきた。担任が異年齢のクラスを意識し保育を展開していく中で年長児に対する憧れの気持ちや小さい友達への思いやりが自然な形で芽生えていった。次年度もこの環境を踏まえ保育形態を検討し、意図的に計画していきたい。</p> <p>・指導上配慮を必要とする園児については、情報の交換をしながら進めてきているところである。今後も家庭や専門機関との連携を取りながら個別支援計画での話し合いを生かし、共通理解を深め適切な関わりが持てるように努力を重ねていきたい。</p>

研 修 と 研 究	人間形成のために、本園の教育目標Ⅱ『自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに』を重視し、“幼児一人ひとりが人間として命を大事にして生きていくこと”と“自分に対して誠実に生きること”ということを願い、遠い将来を見通した幼児教育を目指している。	A	・子どもたちは興味関心があることに對して自ら考え意欲的に行動することが出来る。更に仲間と考え行動し、共に思いを伝え合える関係を育みたい。そのために教師は自信に繋がるような声掛けを心がけ、自分の考えを素直に表せるように見守っていききたい。相手を思いやる気持ちや互いが尊い存在であることを幼児教育を以て伝えていききたい。
	教師一人一人が自らの課題を自覚し、自立していくために研鑽を深めていく。同時に各々の特性を生かした同僚性を効果的に展開し、保育の質の向上を目指していく。	A	・各学年に於いて疑問に思ったことや困ったこと等を直ぐに相談できる同僚の存在がとても心強い。子ども理解や課題等、共通の願いを持って同じ視点で向き合う事が出来た。今後も保育を振り返り意見交換をすることで、互いにより刺激を受けて、園全体で保育の質の向上を目指していききたい。
	協同性と表現を大きな柱とし、保育を進める上で科学的な考察、実践的な考察を有機的に結合させていく。これは、子どもの発達の見通しや家庭や小学校との連携においてもこの視点で伝えていく。	A	・感染予防対策を講じ模索しながら活動を進めてきた。実際に進めていく中で教師自身の気づきに繋がり、子どもたちによりよい環境が見えてきた。今後も子どもたちの成長していく姿を見通しながら、計画と実践、振り返りを記録し、明日に繋がる保育を展開したい。この観点から、小学校との連携も図っていく。また大学の講師を招き、それぞれの年齢に合わせたテーマの中で、保育を様々な角度から分析し、考察する機会を持つことが出来た。次年度は今年度を継続して各々の研究をより深め、日々の保育・子ども理解に繋いでいききたい。

※自己評価欄の記入方

A；十分に達成されている。

B；ほとんど達成されているが、部分的に課題が積み残されている。

C；課題が多く積み残され、ほとんど成果が上がっていない。

3 総合評価

- ・今年度は感染予防対策を講じながら新しい生活様式の中でスタートした。三密を避けるために室内や廊下、園庭他様々な場所で工夫した生活方法を取り入れた。このことを園児が受け入れられたことに成長を感じ、更に保護者の理解や協力によりこの対策を進められることが出来た。
- ・日々丁寧に保育を進める中、分散保育では生活様式を身に付ける準備期間となった。また担任が提供する教材で机上での充実した時間を過ごし、製作活動において創造力が膨らみ、細やかな作業に関心が深まり手先の器用さに繋がった。
- ・行事の見直しを行い、分散での園外保育、学年別の運動遊びの会、作品展示の方法と日程等、子どもたちの発達過程における保育の必要性を再度検討する機会となった。
- ・農園保育を行い、福島を支援する取り組みとして野菜の注文販売を実施し売り上げと募金を送金した。この活動を始めて 10 年、今後も子どもたちと共に継続させていきたい。また平和を願い、広島平和記念公園と福島診療所に千羽鶴を届けることが出来た。
- ・コロナ渦での教育活動を経験し、今後更に子どもたちが安心して活動できる環境を作り出し、同僚性を生かし、園内研究や教材研究を充実させ保育の向上に努めたい。
- ・保護者に対して幼児教育の重要性を理解し共有するためにクラスだよりを全家庭に配布した。その結果家庭からの感想等が増加した。今後更なる方法を考え出し、幼児期に相応しい教育内容を発信していきたい。

4 今後の改善点

改善点	具体的な取り組み内容
○個別支援計画の充実	・計画を立て実施した内容の考察、活用結果を公表し、担当外の職員との共通理解に繋げたい。
○保護者との幼児教育の理解と共有	・クラスだよりを通して保育のねらいや必要性を伝え、幼児教育の共通理解を図る。そのために職員間において教育理念等について意見を述べ学び合う。
○保育の計画性	・朝の遊び環境の充実。 ・保育内容は具体的な活動内容を示し、目的が分かり易く取り組めるように計画する。 ・環境は子どもの育ちに重要である。時間・人・物・空間等多様な視点から環境を設定するために研究に努める。 ・放課後の時間と内容の計画的な配分を目指す。